

製品名: PDGF-C ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15903**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:50-1:200, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	PDGFC
別名	Platelet-derived growth factor C (PDGF-C; Fallotin; Spinal cord-derived growth factor; SCDGF; VEGF-E) [Cleaved into: Platelet-derived growth factor C, latent form (PDGFC latent form); Platelet-derived growth factor C, receptor-binding form (PDGFC receptor-binding form)]
遺伝子 ID	56034.0
SwissProt ID	Q9NRA1
免疫原	アミノ酸配列範囲 61-110 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

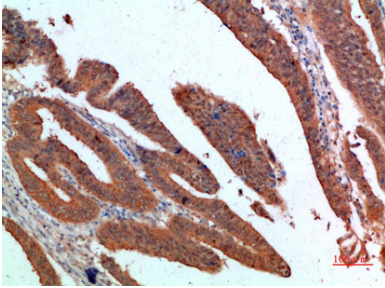
背景

血小板由来増殖因子 C(PDGFC) Homo sapiens この遺伝子によってコードされるタンパク質は、血小板由来増殖因子ファミリーのメンバーです。このファミリーの4つのメンバーは、間葉系細胞の分裂促進因子であり、8つのシステインからなるコアモチーフを特徴とします。この遺伝子産物はホモ二量体のみを形成するようです。血小板由来増殖因子 α および β ポリペプチドとは異なり、CUB ドメインと呼ばれる特殊な N 末端ドメインを有しています。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2010 年 9 月],発育段階:胎児の腎臓において、発育中のメサンギウム、尿管芽上皮および未分化間葉系で検出される(タンパク質レベル)。,疾患:Ewin ファミリー腫瘍(EFT)の悪性表現型に寄与する、EWSR1 融合タンパク質の下流標的。 ,疾患:子宮平滑筋腫(UL)患者で発現が増加。 ,疾患:増殖性硝子体網膜症(PVR)患者に存在する優勢な PDGF アイソフォーム。 プラスミンは、PVR 患者の硝子体中の PDGFC を処理する主要なプロテアーゼです。 ,疾患:髄芽腫の表現型は、PDGFR アルファの発現と活性化に関連しており、PDGFC はこのような内因性オートクリン ループの主要なプレーヤーです。 ,機能:間葉系起源の細胞に対する強力なマイトジェンおよび走化性因子です。この成長因子が親和性受容体に結合すると、さまざまな細胞応答が誘発されます。創傷治癒の 3 つの段階(炎症、増殖、リモデリング)に関与していると考えられます。間質線維芽細胞から筋線維芽細胞への形質転換とコラーゲン沈着が起こる線維化プロセスに関与しています。 α 血小板由来成長因子受容体ホモダイマー、 α および β ヘテロダイマーの特異的リガンドとして機能します。受容体に結合すると、チロシンリン酸化によって受容体の活性化が誘発されます。CUB ドメインは冠動脈平滑筋細胞で分裂促進活性を示し、PDGF ドメインの潜伏状態の維持以外の役割があることを示唆している。核内では、PDGFC は追加の機能を持っているようである。口蓋形成に関与していると思われる。誘導:腫瘍由来細胞では、EWS-FLI1 キメラ転写因子によってアップレギュレーションされる。有足細胞および間質細胞では、これらの細胞の損傷/活性化後にアップレギュレーションされる。FGF2 は EGR1 を介して PDGFC の転写を活性化する。FGF2 と協調して TGF β 1 によってアップレギュレーションされる。 ,その他 :甲状腺乳頭癌患者では、より低分子量の形態(約 43 kDa)が認められる。 ,PTM:N グリコシル化されている。 ,PTM:コアドメインを解放する N 末端 CUB ドメインのタンパク質分解による除去は、コアドメインの受容体結合エピトープをアンマスクするために必要である。ヒンジ領域(CUB ドメインと成長因子ドメインを連結する領域)の塩基性残基の後ろの切断により、受容体結合型が生じる。PLAT および PLG によって切断される。 ,PTM: SUMO1 によって SUMO 化される。 ,類似性: PDGF/VEGF 成長因子ファミリーに属する。 ,類似性: 1 つの CUB ドメインを含む。 ,細胞内局在: SUMO 化型は核内で優位である。血小板の α 顆粒に貯蔵される。受容体に結合すると膜に結合する。 ,サブユニット: ホモ二量体; ジスルフィド結合。CUB ドメインを介して、またクリングルドメインを介して PLAT と相互作用する。 ,組織特異性: 卵管、腎臓、乳房、結腸の血管平滑筋細胞、および消化管の内臓平滑筋で発現する。腎臓では、ボーマン嚢壁上皮細胞、尿細管上皮細胞、および動脈内皮細胞(タンパク質レベル)に恒常的に発現している。血小板、前立腺、精巣、子宮では高い発現を示す。脾臓、胸腺、心臓、膵臓、肝臓、卵巣細胞、小腸では弱い発現を示し、結腸および末梢白血球ではごくわずかな発現を示す。

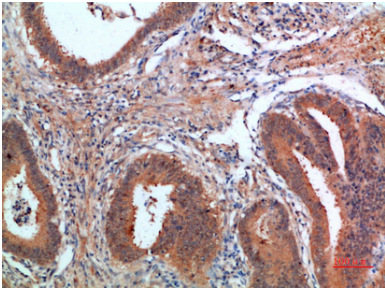
研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;焦点接着;ギャップ結合;アクチンと細胞骨格の調節;前立腺癌;黒色腫;

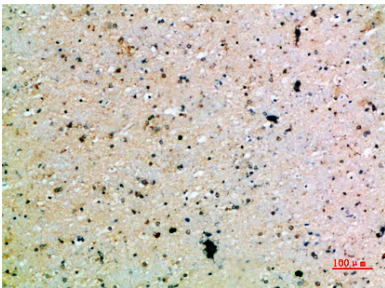
画像データ



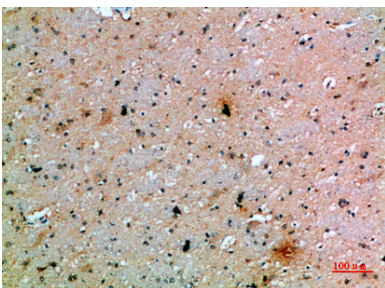
パラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された



パラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された